

玉野市立荘内小学校

児童数 665 名 ・ 学級数 27 学級 ・ 教職員数 39 名（平成 27 年 1 月 30 日現在）

○取組実践のキーワード

探究的な学習の展開、学習指導のスタンダードに基づいた授業づくり、学習習慣の確立

○標題（研究主題）

「子ども、教師、保護者が一体化した子どもの学習環境の構築」

○取組を始めた経緯

本校は、玉野市の中では学級数が多い。教員の数も多く、それぞれが個性を発揮しながら学習指導を進めている。しかし、授業方法、家庭学習の量やその内容などが学級によって違いがあり、同学年の学級間でも差異が見られたり、進級して担任が替わると子どもが混乱したりする状況も見られてきた。

そこで、全教職員、児童、そして保護者が学習方法や家庭学習の方法について共通理解し、学年に応じて同じように進めていくことこそ、学校全体の学力向上を目指すための土台と考え、平成 21 年度から、学習規律と家庭学習の方法については全校で共通のものを作成し、それを基にしつつ、更に授業改善を進めるなど、学力向上を図っている。

○取組の実施体制

本取組に係る体制としては、「学力向上部」（3 名）が中心となって実施案を計画し、学年主任を中心とした「学校運営委員会」、と、職員会議、職員研修、学年会の機会に実施案の検討、取組の点検を行っている。

また、1 小 1 中の中学校区の特性を生かし、小中連携の協議会にて学習規律や家庭学習の方法の在り方を共有する機会をもっている。

○学力向上に向けた具体的な取組

(1) 学習規律の統一「荘内小 7 つのやくそく」

平成 21 年度から行っている本校の学習規律である。子ども向けの規律（学習規律）と、教員向けの規律（指導規律）の両面から明確にし、子ども向けの言葉で提示した。教室にも掲示し、毎時間子どもと一緒に確認しながら授業を行っている。

特徴としては、課題解決学習を基本とした学習規律にすることとともに、教師側の指導規律も子どもに明示していることが挙げられる。例として、学習の開始、終了時刻を守ること、課題の提示、学習のまとめの確認を必ず行うことなどがあるが、(写真 1)「荘内小 7 つのやくそく」を基に、全学級統一した課題解決学習を子どもと一緒に目指すことを、教師自身が明確に提示したものである。

「荘内小 7 つのやくそく」の取組の意義としては以下のようなものがあると考えられる。

まず第 1 に、作成に当たって全職員で授業の在り方を共通理解したことである。この学習規律は学力向上部が一方的に提示したものでなく、職員会議で検討を重ねている。その過程で、「生徒指導等で、授業の開始が遅れたときはどうするのか。」「毎時間学習のめあての確認が難しい。」「どうしても終了時刻が遅れることもある。」などの意見が出た。しかし、それを乗り越え、教師が指導規律を粛々と守ることで子どもにも学習規律が定着すると考え、「荘内小 7 つのやくそく」が生まれた。学習規律について協議をしていく過程に、模範的な授業像の共有の意義があると考えている。

2つ目には、毎月の学習規律の確認が挙げられる。本校では、毎月の学校運営委員会で学年主任が学年の様子を報告しているが、その会の最初に「荘内小7つのやくそく」が定着しているかについて、各項目の反省を行っている。子どもの様子だけでなく、教員の反省として「授業の時間を守っている」「授業の中で課題の提示やまとめの確認のある授業を行っている」など、教師自身が指導規律の再確認をするなど、継続的に自己反省を行い、授業改善に役立てている。

(2) 家庭学習の方法の提示「家庭学習の手引き」

平成21年度に作成し、毎年子どもに配付しているパンフレットで、家庭学習を行う上での留意点や各学年の家庭学習の時間と内容の紹介などを掲載している。(写真2)

学習時間は、1・2年は30分、3・4年は45分、5・6年は60分を目安にしており、各学年に応じた「自主勉強」のテーマを紹介している。(写真3)

また、保護者向けに子どもの家庭学習を見守る上での留意点も載せており、教師と保護者が連携して、子どもの家庭学習の習慣を育てていきたいと考えており、「家庭学習の手引き」も、学習規律同様、学年会や運営委員会で定期的に取り組状況を報告し合うとともに、毎年改善点を話し合っ改訂を重ねている。

例えば、学年に応じて、家庭学習のチェックカードを工夫したり、「子どもの自主勉強が定着せず、方法が分からないという子どもが少なくない。」という意見から、今年度はノート書き方を紹介したページを増やしたりしている。今年度の課題として、読書活動の充実が挙げられており、来年度の改訂では、家庭読書の方法を紹介する予定にしている。

(3) 小中連携による学習習慣の育成「家庭学習推進週間」

小中連携の協議により、今年度から始めた取組である。中学校までに家庭学習の習慣を身に付けておきたいということと、中学生の兄弟がいる家庭で、試験期間中には、生徒が学習に向きやすい環境を家庭全体でつくりたいという願いの両面から取り組むこととした。

「家庭学習推進週間」の内容は、次のとおりである。

- ・期間中は、学習の手引きに沿って学習時間を守る。
- ・ゲーム、スマートフォンで遊ぶ時間を30分以内にする。
- ・テレビの時間も少なくし、読書をするなどして、中、高生の学習の妨げにならないように過ごす。

この取組の内容を、まず、家庭に文書で周知した。(写真4)そして、取組期間には、帰りの会等で、担任が学習方法や内容について再度指導することで、取組が充実するようにしている。今年度は2回行う予定であるが、1回目(12月初旬実施)の取組後、家庭に向け取組時の子どもの様子や今後の取り組み方についての要望等をアンケートにて尋ねた。(結果後述)

○現在までの取組の成果と課題

1 成果

(1) 「7つのやくそく」

全学級で「学習課題の提示→学習のまとめ」の授業形態が本校のスタンダードとして定着した。教師がこのような授業を毎年、毎時間行うことで、子どもに、課題解決学習の方法が定着していると考えられる。子どものノートを見ても、高学年になると、「めあて」、「まとめ」が自分の言葉で記述できる子どもが増えており、学力の向上につながっていると考えている。また、授業研修等では、「めあて」の提示の方法や「まとめ」の確認の在り方がしばしば協議の視点となるなど、この指導規律を土台として、授

業改善を進めているところである。

また、この指導規律により充実した授業が行われることで、子どものノートづくりの質も高まっている。それを家庭学習で、もう一度書き直させたり、加筆させたりする自主勉強を取り入れることで、自主勉強が分かりやすくなると同時に、学習を復習することが充実していると思われる。

(2) 「家庭学習の手引き」

家庭学習の時間の少なさが課題としてあげられるが、今年度の全国学習状況調査による本校の家庭学習の時間の分布を見てみると、全国と比べ1時間以上学習している子どもは多くないものの、本校で定めている1時間の学習時間は定着している。また、家庭学習の内容を点検しても、授業のノートに子どもなりに工夫を凝らして加筆したり、自分で課題を設定して学習をしたりするなど、充実した自主勉強ができる子どもが増えている。(写真5)

(3) 「家庭学習推進週間」

第1回目の取組後に行った家庭アンケートの結果、9割以上の保護者が「子どもの様子がよくなった。」「普段どおりによい。」との回答であった。また、具体的な意見として、「意識付けになった。」「自分から進んで学習していた。」「ゲーム・テレビの時間が減った。」「中学進学への構えを持てた。(6年)」などの意見を多く、「これをきっかけにこれ以外の時も家で注意させたい。」との声もあるなど、保護者にも取組の意義を理解してもらい、連携した取組になりつつある。

2 課題

どの取組も、子どもの学力向上に直接つながっているかどうかの検証は難しい。本校では、未だ学力の二極化が見られ、学力上位の子どもが増えているものの、基本的な学力や表現力が定着している子どもも少ない。「7つのやくそく」による子どもの学習に対する意欲や学習態度は向上していると思われるが、それを学力につなげていく授業の工夫や、基本的な学力を定着させていくための取組を工夫していく必要がある。本校では、朝自習の取組や「算数補充学習」で、学習したことを定着させる取組を行っているが、毎時間の授業の充実と、それらをしっかりと定着させるための取組を両輪として継続していきたい。

また、家庭学習については、前述のアンケートで、「学校で、内容や方法をしっかり指導してもらわないと子どもも親も困ってしまう。」「家庭で学習をしたくなるような取組を考えてほしい。」などの意見も挙げられている。つまり、家庭学習を子どもや保護者任せにせず、学校や担任が更に責任を持って子どもに指導していく必要があるということが課題として挙げられる。「家庭学習の手引き」を毎年配付しているものの、それを実効的にするように、十分に指導していく必要がある。

○取組の継続・発展の要因

上記のような本校の取組は、5年間改善しながら継続している。継続、発展の要因として、以下の3点が考えられる。

① 全教員で十分に議論・検討した取組であること。

実践を全職員で議論することで、全員が主体的に授業像や家庭学習の意義や在り方についてしっかり考えることができた。この過程が重要であると思われる。一人一人の教員が主体的に、「授業を改善する。」「荘内小学校全体で授業改善を行っていく。」という意識を強くもてるからである。

② 継続的に取組の実態を点検、改善していくようにしていくこと。

「7つのやくそく」、「家庭学習の手引き」とともに、毎月、取組の実態をお互いに反省し合っている。その過程で、子どもの発表の仕方に課題があること、家庭学習の取り組み方に個人差があることなどが課題として挙げられ、それを克服するために、発表の仕方を重点的に指導することを共通理解したり、他クラ

スの家庭学習の取組で成果が上がったことを紹介し合ったりしている。また、年度末には、総括として、取組自体を見直し、次年度に向けて改正する作業を行っている。こうした継続的な点検作業で、取組が形式的にならず、学年間、学級間での取り組み方に温度差が生まれず、全校的な取組になっていると思われる。

③ 子どもや保護者に任せっぱなしにするのではなく、教師自身が改善していく姿勢を見せること。

本校の取組の特徴は、「先生はこうにしています。」「学校ではこうに指導していきます。」ということ率先して子どもや保護者に明示していることである。子ども、保護者と一体となって学力の向上、学習習慣の定着を目指したい。そのためには、子どもだけに努力目標を押し付けたり、保護者に家庭学習の見守りを任せてしまったりするのではなく、「先生と一緒にがんばっていきましょう。」「荘内小学校の授業をみんなでつくっていきましょう。」、という姿勢をしっかりと見せることが大切だと考える。そうすることで、子どもや家庭の理解を得られ、全校で一体化した取組になっていくと考えている。

○管理職・中核教員等のアクション

このような取組を充実させるために、学年主任、学力向上部が中心となって、定期的に取組状況の共有を図っている。その中で、アドバイスし合ったり、他学年の取組を自分の学年に取り入れたりするとともに、取組の全校的な課題を取り上げ、そこを重点化して取り組むことを学年全体に確認し、実践するようにしている。

管理職については、本取組を学校経営計画の中心として位置付けるとともに、教員一人一人の面談や取組の検討会にて取組の状況を把握し、助言を行ったり、実際に授業の様子を丹念に見て回り、状況に応じて、助言を行うようにしている。




○その他の資料・写真等



荘内小の授業
7つの約束

子ども	先生
1 学習用具はそろえておく	1 学習の計画を書いておき、計画通りに授業をする
2 チャイムの合図で学習が始まるように準備して、席に着く	2 チャイムの合図をきちんと守る
3 授業の始まりと終わりのあいさつをきちんとする	
4 考えるときは時間いっぱい考える	4 必ず学習のめあてをはっきりさせる
5 名前を呼ばれたら、「はい」と返事をして、「～です。」まで、はっきりと話す。	5 何をどのようにすればよいか、わかりやすく説明してから活動にうつる
6 すぐにわからないときには、「考え中です。」「わかりません」とはっきり言う	6 「～君」「～さん」をつけて呼び、子どもの発表をきちんと聞く
7 先生や友達の話は、最後までだまって聞く	7 学習のまとめをして、学習したことを確かめる

写真1 荘内小7つのやくそく

家庭学習のポイント

1. 時間をきめてしましょう。
 - ・「何時から何時まで勉強する」ときめて、集中して取り組みましょう。
 - ・毎日、つくえに向かしましょう。
2. まわりを片付けて、気がちらないようにしましょう。
 - ・つくえの上やまわりをかたづけ、よい状態で取り組みましょう。
 - ・テレビやゲームのスイッチは切りましょう。
 - ・「ながら勉強」(おやつを食べながら、テレビを見ながら)はやめましょう。
3. まず、宿題をすませてから自主勉強をしましょう。
 - ・宿題がすんだら、すぐ自主勉強に取り組みましょう。
 - ・次の日の準備もしましょう。

4. 「めあて」をきめてみましょう。
 - ・自主勉強は内容を自分できめましょう。(おうちのひとと相談してもいいですよ。)
 - (例)「算数の多い漢字練習をしよう」「算数の文章問題をとこう」「今日の勉強のノートをまとめ直そう」など
5. 最後まででいてねいにしましょう。
 - ・でいていない文字を書く、計算の答え合わせをして、まちがった所はやり直すなど、最後まででいてねいに取り組みましょう。

生活のリズムをつくることも大切だよ!
「早寝・早起き・朝ごはん」で
毎朝の朝顔をこたえましょう。



写真2 家庭学習のてびき(1)

5.6年

めやすの時間 1時間

最後までていねいに取り組みましょう。
いろいろな学習に取り組みましょう。

国語

- 学校での学習をノートにまとめ直す。
- 学習した漢字を使って短文づくり
- 興味を持った語句の意味を国語辞書で調べる。
- 新聞記事について自分の考えをまとめる。
- ほかがえやすい漢字を復習する。
- 俳句や短歌、詩などを視写する。

など

算数

- 学校での学習をノートにまとめ直す。
- 自分で問題を作って解く。
- まるがいやいや計算や問題の考え方を注意することをする。
- 身近な算数(図形、小数、割合、グラフなど)をみつけてまとめる。
- 計算ドリルなどをつかって計算の復習をする。

など

理科

- 学校での学習をノートにまとめ直す。
- 天気や月、太陽を観察してまとめる。
- 植物や動物、人体の仕組みなどを調べてまとめる。
- 家庭でもできる簡単な実験をしてまとめる。

など

社会

- 学校での学習をノートにまとめ直す。
- 県名、国名、日本の主な山脈など、地理について調べる。
- 歴史上の人物について調べる。
- テーマを決めて新聞づくりをする。

など

そのほかにも・・・

身近な英単語や英語の言い方を調べる、福祉や環境問題について調べる、家庭科の学習を実践する、……など、いろいろな学習をしてみよう。

おうちの方へ

「もう済んだ。」「今やろうと思った」など、大人の声かけに反発が出る時期です。子どもの自主性、計画性を尊重すると同時に、本当に真剣に取り組んでいるかどうか、しっかりと見守ってあげてください。

写真3 家庭学習のてびき(2)

平成26年11月21日

保護者様

玉野市立荘内小学校
校長 阿部 幸生

「家庭学習推進週間」の取り組みについて (お知らせとお願い)

初冬の候、皆様方には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また平素から、本校の教育活動につきましてご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。さて、本校では、子どもたちが確かな学力を身につけるため、「授業改善」とともに「家庭学習の習慣化」に取り組み、少しずつ成果が上がっているところです。この度、小学校と中学校が連携し、両期間中に両校で「家庭学習」をさらに推進し、量と質の向上を図ろうと考えています。つきましては、以下の取り組みを行いますので、ご家庭でもご協力をよろしくお願いたします。

記

- 1 名称 「家庭学習推進週間」
- 2 期間 平成26年11月25日(火)～12月2日(火)
<区内中学校の期考調査発表・期間中>
- 3 内容 【学校】
○「家庭学習の手引き」を使って家庭学習の内容や方法を再度指導する。
○期間中の特別な約束について指導する。
【家庭】
○テレビを消すなどして、学習環境を整える。
○見守る。声をかける。認める。励ます。褒める。
○「生活チェックカード」を点検する。
- 4 約束 家庭学習推進週間の約束は以下の通りです。
① 自分から進んで取り組みましょう。
② 1年～5年生は、学年で決められた時間は、必ず学習しましょう。
<1・2年～30分、3・4年～45分、5年～60分>
また、6年生は、中学校入学に向けて、60分+15分=75分学習しましょう。
③ ゲーム、スマホなどで遊ぶのは、30分以内にとしましょう。テレビを見る時間も長くないように気を付けましょう。
④ 中学校、高校のお兄さん、お姉さんのいる人は、学習のじゃまにならないように読書したり、絵をかいたりして静かに過ごしましょう。
⑤ 上りに過ごせたかどうか、「生活チェックカード」にチェックしましょう。
- 5 備考 ○「生活チェックカード」を配布し、自分でチェックさせるようにしますので、点検してあげてください。
○推進週間後、成果や課題についてアンケートをいたします。ご協力下さい。

写真4 家庭学習推進週間保護者向け文書

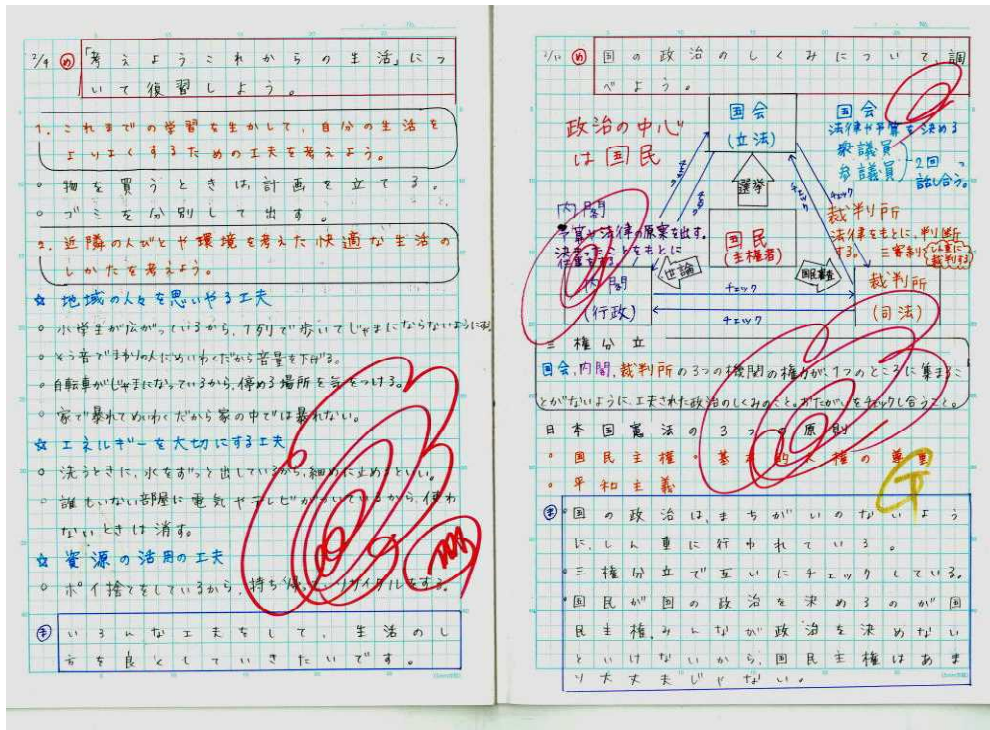


写真5 子どもの自主勉強ノートより